

アレルギー診察における導入事例

藤谷クリニック

普段アレルギーで診察している患者さんの感染症状把握のために使用しています。



藤谷クリニック

藤谷 宏子先生

小児科専門医・アレルギー専門医

- 使用機器：自動血球計数装置 Microsemi LC-660、自動CRP測定装置 LT-130
- 測定項目：CBC、CRP
- 検査件数：3～5件/日

Q1 1日何人くらいの患者さんを診察されますか？
また、1日のCBCとCRPの検体数はどのくらいですか？

A1 アレルギー患者さんを中心に、**1日に60人～100人くらいです。**
3月は給食指示の作成や、花粉症の季節なので、忙しい時期です。
CBCとCRPの検体数は、1日に3検体～5検体です。**そのほとんどはCBC+CRPのセットです。**
感染症が流行した時は、多くなりますね。

Q2 どのようなときに、CBCとCRPの検査をしますか？

A2 普段アレルギーで診察している患者さんが発熱した場合、**ウイルス感染か細菌感染かを診断して、抗生剤投与の判断をするために使用しています。**
とびひの原因菌は、ブドウ球菌と溶連菌なのですが、治りが悪い場合には、炎症状態を把握するためCBC+CRPを測定しています。
インフルエンザと診断した場合でも治りが悪い場合には、細菌の混合感染を疑って、CBC+CRPを確認しています。
細菌の混合感染が疑われた場合には検査結果と患者さんの全身状態から判断して、連携病院に紹介することもありますので、**その場で検査結果がわかるのは助かります。**

【CBC】(全血検査) 赤血球・白血球・血小板等の血液中の有形成分の数と形態を検査。全身の容態を把握することができる。

【CRP】(C反応性蛋白) 体内で炎症がおこっている時に、血液中に増加するタンパク質。感染症等の目安になる。





乳幼児では、病気の進行が速いので、
 連携病院に連絡するかどうか迷うとき、
 その場ですぐに検査結果がわかるのは
 助かります。

Q3 測定結果はどのように使用されていますか？

A3 私は、より正しい診断の一助として使用しています。

一昔前の先生方は1人の患者さんにかかる診察時間も長く、ご自分の経験を活かし検査もされずに診断されていました。今では1人の患者さんにかかる時間が短くなり、経験ではなくエビデンスを基に診断するよう教育されていますので、測定結果を参考にして診断するようになっています。

Q4 病診連携において検査データを用いられることはありますか？

A4 CBC+CRPの測定結果が悪い場合や、患者さんの容態が悪いと判断した場合には、近くの病院を紹介しています。

乳幼児では、病気の進行が速いので、連携病院に紹介するかどうか迷う時、**その場ですぐに検査結果がわかるのは助かります。**



Q5 最後に、先生のモットーをお教えてください。

A5 子供の笑顔を見ることができ、子育てを楽しむ医療を心がけています。

私が診療の中心としている食物アレルギーは、上手にコントロールすることで、成長とともに治すことが可能です。

アレルギーを通じ、食生活や日常生活を見直し、気持ちよく生活していただきたいと考えています。



**施設
インフォメーション**

施設名： 藤谷クリニック
 住 所： 大阪市天王寺区上本町
 6丁目3番31-228号
 電 話： 06-6771-5315
 診察科目： アレルギー科
 小児科
 脳神経外科
 内科

自動血球計数装置
 Microsemi LC-660
 製造販売届出番号：26B3X00002210001
Microsemi LC-660は全血、検体吸引量
 10μL、約60秒でCBC 18項目（白血球
 3分類を含む）を測定できます。



自動CRP測定装置
 LT-130
 製造販売届出番号：26B3X00002310002
 コンパクトボディにCRP測定の基本機能を集約
 した自動CRP測定装置です。



株式会社 堀場製作所 医用営業統括室 TEL(075)313-5736(直) FAX(075)313-8177 e-mail:info@horiba.co.jp http://www.horiba.co.jp

- 北海道 (011) 207-1800(代)
- 東北[仙台] (022) 308-7890(代)
- 東京 (03) 6206-4719(直)
- 名古屋 (052) 936-5781(代)
- 大阪 (06) 6390-8013(直)
- 四国 (087) 867-4800(代)
- 広島 (082) 288-4433(代)
- 九州 (092) 292-3593(代)

カタログNo. YMT335